

結成6年、地域に広げる活動の輪

新勝浦市漁業協同組合 婦人部 鵜原支部

副部長 大森 てる子

1. 地域と漁業の概況

私たちの所属する新勝浦市漁業協同組合鵜原支所は、太平洋に面した房総半島のほぼ中央にある。景勝地「鵜原理想郷」として内外に知られ、千葉県唯一の海中公園もあるため、年間を通し観光客が絶えない。

漁業の主体は小型船による一本釣や刺網で、採介藻も盛んである。

2. 研究グループの組織と運営

私たちが活動を再開して6年になる。

旧鵜原漁業協同組合には昭和50年代まで婦人部があったが、活動の鈍化により自然消滅してしまった。その後組織活動の必要性から平成4年3月に再結成されたが、より地域に根ざした活動を行うために、部員の募集は漁家以外の女性にも行った。そして平成9年6月の勝浦市内7組合の合併により、それまでの鵜原漁業協同組合婦人部から、現在の新勝浦市漁業協同組合婦人部鵜原支部に組織が改編された。

鵜原支部の現部員数は127名で、約3分の1は漁家以外の女性が占めている。役員は部長1名、副部長及び会計各2名、各町内の班長17名である。

3. 研究実践活動状況及び効果

☆冠婚葬祭の簡素化

鵜原地域では昔から冠婚葬祭のもてなしが盛大で、家計圧迫の原因となっており、常々改善が望まれていたため、私たちの手で改善の道を探ることにした。

お祝い事に関しては反発が大きいため、葬儀の際の返礼から改善することにした。それまで葬儀の返礼は、施主だけでなく親類までお金や品物をだすのが通例となっていたので、返礼を施主のみに限定し内容を簡素化した統一案を作り、区長へ提出した(表1)。その案が通り、地域での弔事の際の取り決めとして、区民に協力依頼が配られた。内容はほとんどの人が賛成してくれた。ただし、手伝い人の女性に対する礼金について「最近は勤めに出ている人が多く、仕事を休んで手伝ってもらうのに額が低くて申し訳ない」という意見が出たため、平成7年から、式が数日かかる葬儀の時のみ5,000円に引き上げた。

婦人部ではこの取り決めの周知徹底を図り、部員同士が声を掛け合ったり、ご不幸があった家すぐに部長が出向き守ってくれるようお願いしたりしている。そのため、特に混乱もなく広がり、今では新しい慣行として地域に定着している。

☆漁協貯金、共済への参加

鵜原支部は漁家以外の女性も多いが、活動を進める上では母体の漁協の協力が必要不可欠なので、家計を預かる私たちが信用事業へ積極的に参加している。

第一に、婦人部加入時に部員が個人名義の通帳を作り、毎月積立貯金を行っている。この貯金は信用事業の資金増大につながっただけでなく、家計を預かる私たちの「自分のお金」に対する意識も変え、生活にゆとりが生まれるようになった。

第二に、婦人部役員が漁業共済の勉強をし、共済加入推進期間に家庭訪問を行い、加入の推進に協力している。

☆アオグサ調査

部員の多くは自分でテングサを採っているが、干すと青くなり普通のテングサの半値にしかならない「アオグサ」が多く採れ、問題になっていたので、発足直後に勝浦水産事務所等の協力で調査を行った。その結果、アオグサは珪藻が繁茂してテングサに大量に付着したためにできることがわかった。しかし珪藻の防除方法は研究されておらず、要因についても潮流や海水汚染など様々なものが考えられ、確定は出来なかったが、海を汚さない生活への意識が高まった。

☆料理講習会

家族の食生活を豊かにするため、部員対象の料理講習会を行っている。結成直後は農業改良普及員が指導してくれたが、その後農家の生活改善グループの方を講師に招いている。内容は表2の通りである。他にも、勝浦市の生活改善グループと協力し、成人病予防に効果のある料理の講習会を行っている。

☆味噌づくり

私たち婦人部の発足以前から、勝浦市内の幾つかの漁協婦人部では、農漁家交流の一環として地元の大豆、米を使った味噌づくりを行っていたので、私たちも参加することにした。大豆を蒸す大釜は、各婦人部(支部)持ち回りで使用している。作り方については、発足した年に他の漁協婦人部の作業を見学に行き、最初から自分たちの力だけでやっている。味噌は冬につくり、仕込んでから一年寝かして食べるが、最初の年から上手くできて自信がついた。自分たちの手でつくった味噌なら、添加物の心配もなく、塩分も加減できるので安心である。

この味噌は大変評判が良く、生産量も年々増加傾向にあり(図1)、新規に作り始める人が増えている。平成9年には、味噌づくりに参加したいという理由で新しい部員が3人増えた。

☆「敬老の日の集い」の開催

敬老の日に地域の高齢者に対する行事がなかったため、私たちで長寿を祝おうと「敬老の日の集い」を開いている。

対象は地域に住む75歳以上の方で、場所は臨海学校の施設を借りている。当日は朝早くから、役員と有志が、煮物や焼き魚など全て手作りの弁当や果物、飲み物を用意し、会場の飾り付け等の準備をする。そして青年部員に手伝ってもらい、参加者の送迎を行う。会では踊りをみてもらったり、カラオケで楽しんでももらったりしている。

平成8年から会の最中に参加者の写真を撮り、後で手作りカードにして一人一人に配っている(写真1)が、大変好評である。また平成9年には、私たちが作った味噌の味噌汁も食べてもらい、こちらも好評だった。

☆石けん普及運動

アオグサ調査の後、石けんがだいぶ普及したが、最近では地域で唯一石けんを扱っている鵜原支所での販売数が落ち込み(図2)、あまり使われなくなっているようだった。そこで部員対象にアンケート調査を行った(配布数127、回答数122、回答率96%)。その結果(図3～4)、やはり石けんより合成洗剤の使用がかなり多いため、新たに石けん普及運動を始めることにした。

方法は、役員が商品サンプルと石けんのパンフレットを持って家庭訪問を行い、その良さをアピールし、注文を取って後で配達するようにした。各家庭を回ってみると、どの家でも石けん商品の多さに驚き、また、平成8年に出た液体洗濯石けんのことを知らない人も多かった。液体洗濯石けんは溶け残りや匂いの心配がないので、多くの家で使ってくれることになった。この方法で、普段漁協に足を運ばない一般の家庭でも買ってもらうことができ、販売数が伸びた(図5)。

また、一層の環境保全を図るため、石けんも使わず食器や風呂をきれいにできるアクリル毛糸製のフキンも、部員一人一人に見本と作り方を配り普及しているが(写真2)、部員の反応は上々である。

☆活動へのアンケート調査

私たちは部員100名以上の大所帯のため全員では動きづらく、活動する人が絞られることから、活動の多くは役員中心になってしまい、一般部員の活動離れにより部員が減少するようになってしまった(図6)。そこでアンケート調査を行って(配布数127、回答数122、回答率96%)、改善策を探ることにした。この結果(図7～13)をみんなで検討し、今後の活動へ生かすことにした。

4. 波及効果

この6年間のいろいろな活動を通して、地域の中で婦人部は認められ、地位も確立した。冠婚葬祭の簡素化や貯金運動、石けん普及、高齢者の精神的支援などは、組織的な活動があってはじめて効果が上げられたものである。それ以上に、みんなで力を合わせて何かを行うことや、意見を出し合い問題を解決することの大切さ、すばらしさを学んだのが大きな財産である。

5. 今後の課題

部員の活動離れ及び減少をくい止め、全員が魅力を感じ参加できる活動をするために、アンケートで希望の多かった料理や手芸の講習会等を企画したり、役員の仕事を分業してはどうかと考えている。

なによりも、漁協婦人部としてはまだ始まったばかりである。魚価の低迷や資源の枯渇、就業者の減少など、水産業を取り巻く環境は大変厳しいが、地域の基幹産業である漁業をもり立て、心も体も生き生きとした生活を創造していくのは、私たち女性の務めと自負している。今後は、より一層活動を地域に根付かせるために、そして地域で愛される婦人部にするために、これまでの活動を継続させていく努力が重要である。

・ 葬儀のお返し	施主のみ一品 (2,000円以内) まんじゅう 葉書セット
・ 法事のお返し	施主のみ一品 (2,000円以内) まんじゅう いなり寿司 黒飯
・ 女の手伝い人への礼金	施主のみ (催事ごとに3,000円以内) *平成7年に葬儀の際のみ5,000円に変更

表1 弔事の返礼統一案

平成4年	イカの南蛮漬け、カツオのサラダ、イカゲソのカニゴシ風汁
平成5年	なすのはさみ揚げ、サンマの香り巻き
平成6年	カツオのたたき、キンメの炊き込みご飯、ところてん
平成7年	太巻き寿司
平成8年	太巻き寿司

表2 料理講習会の内容

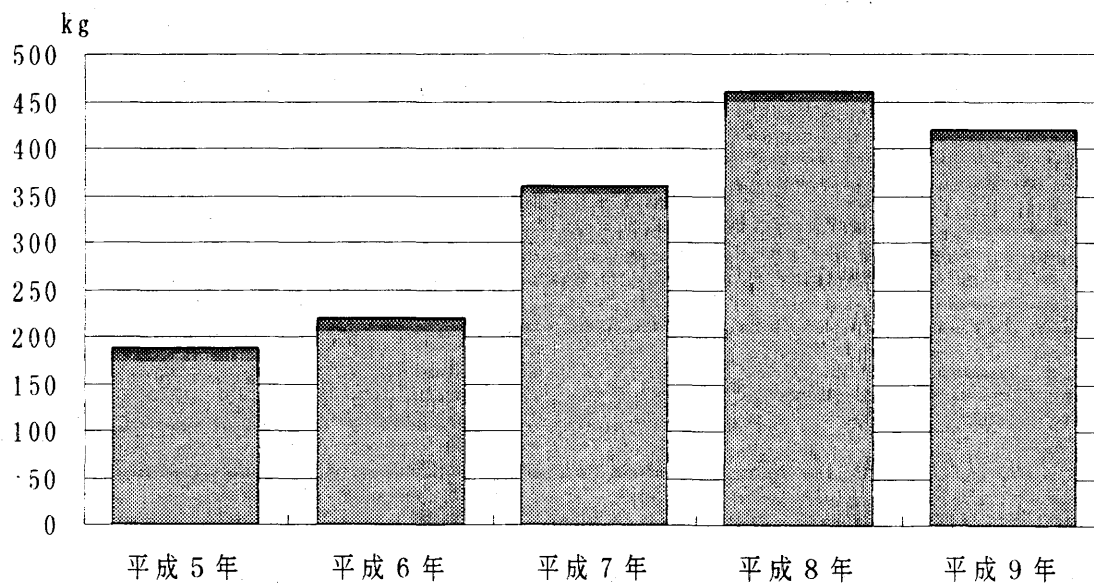


図1 味噌生産量の推移

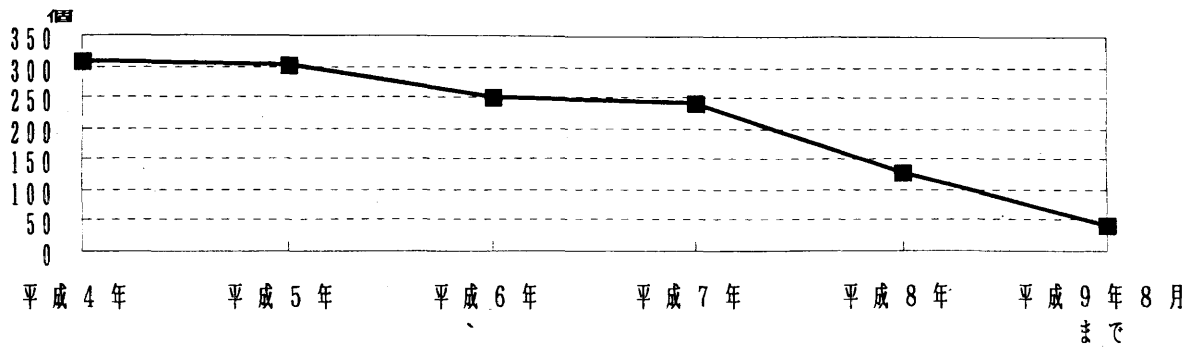


図2 石けん商品の鵜原支所での販売数

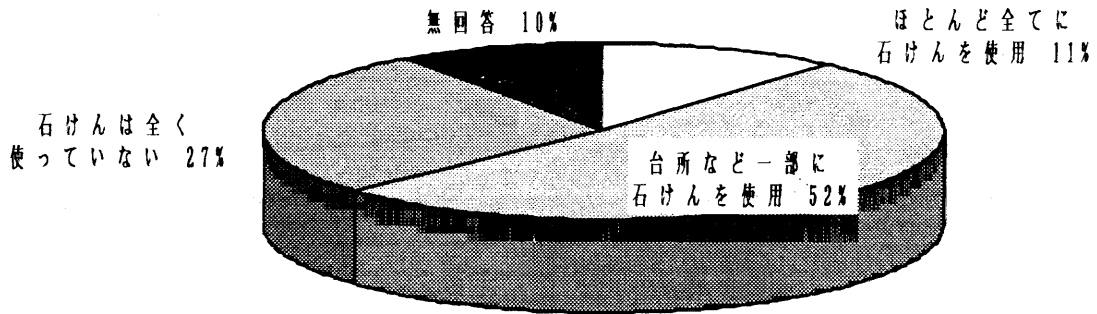


図3 アンケート結果・石けんの使用について

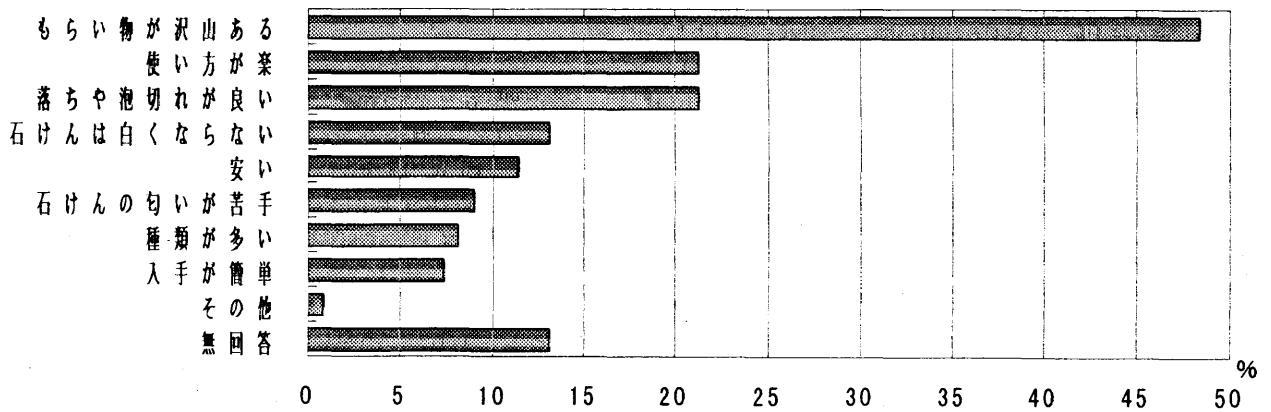


図4 アンケート結果・合成洗剤を使う理由

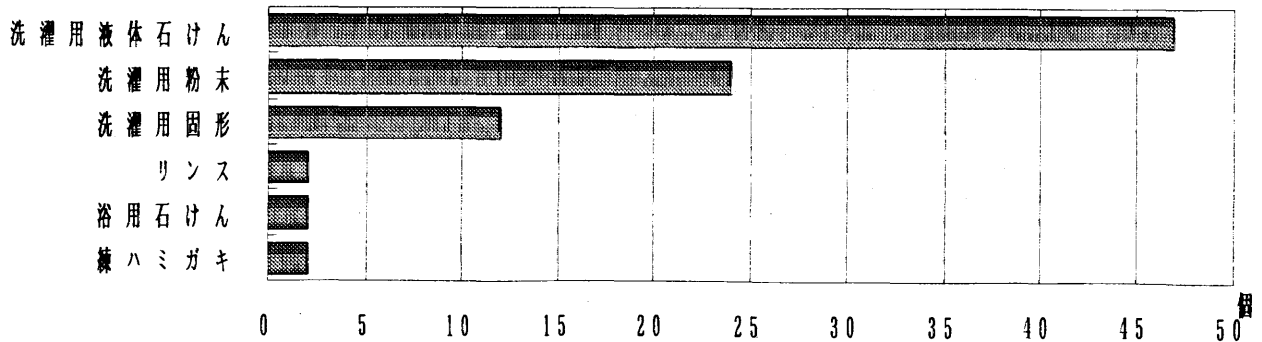


図5 平成9年9月一ヶ月の石けんの販売数

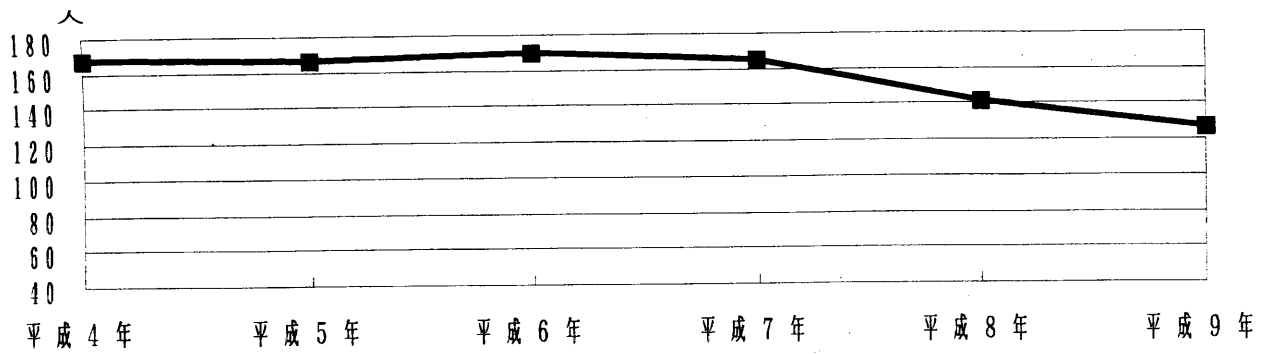


図 6 部員数の推移

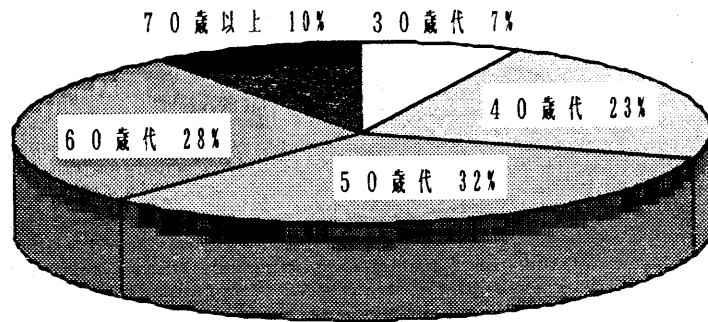


図 7 回答者の年齢構成

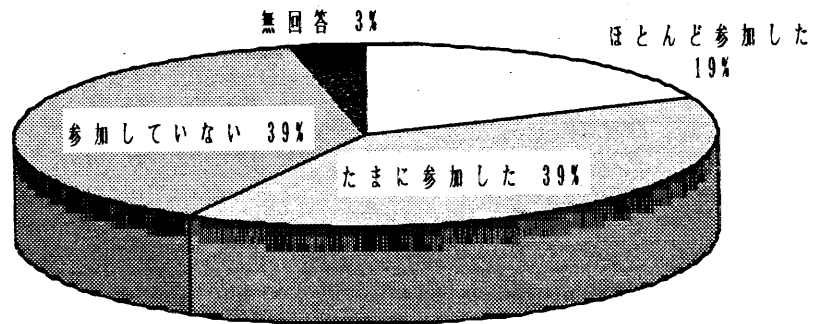


図 8 活動への参加状況

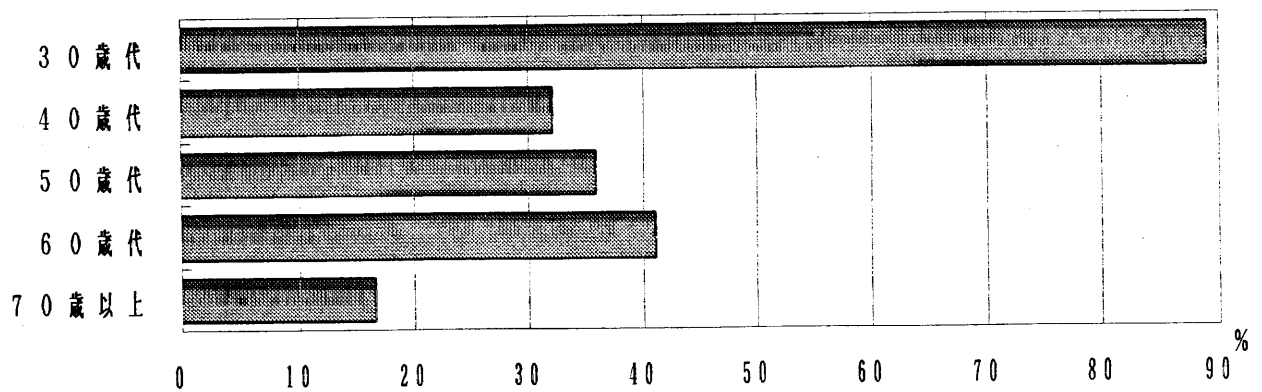


図 9 年代別の不参加の割合

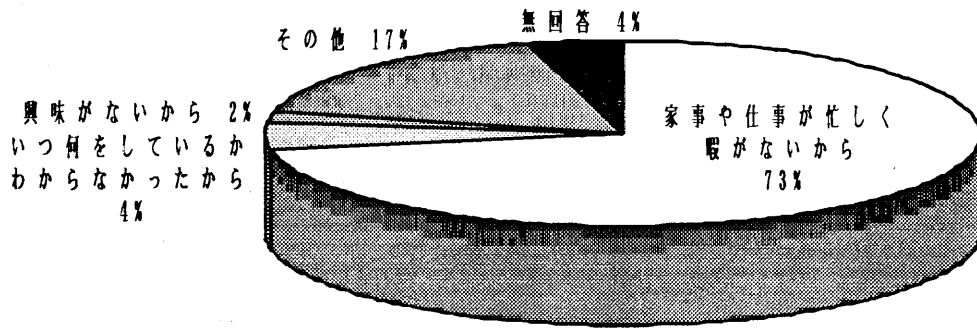


図10 不参加の理由

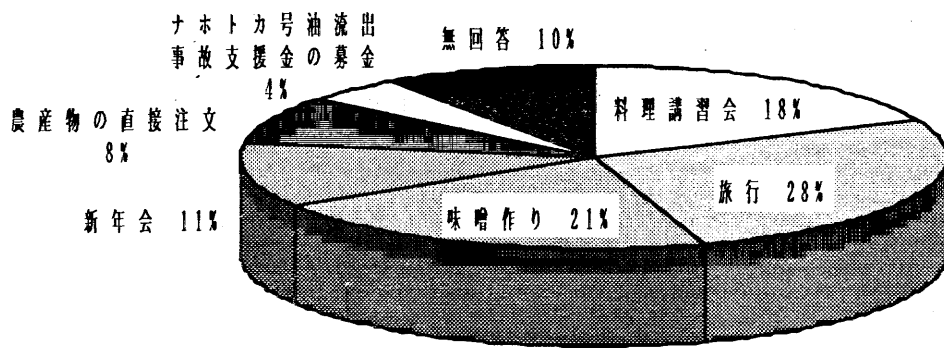


図11 参加して良かったこと

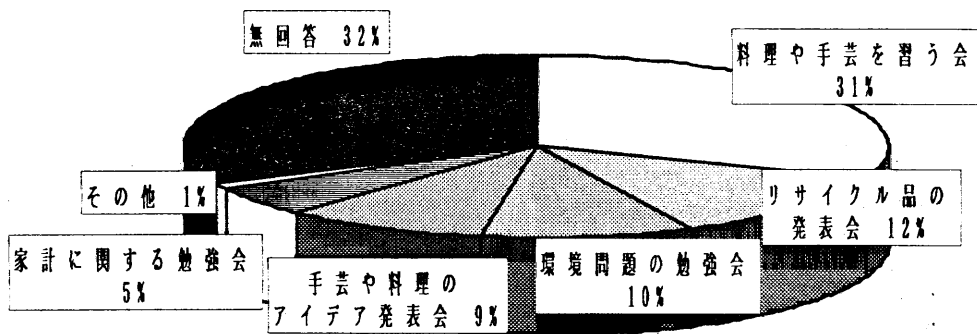


図12 活動への希望

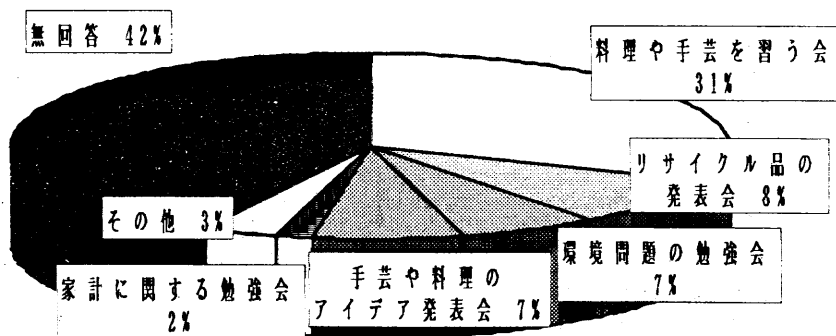


図13 活動への希望 (不参加者の回答)

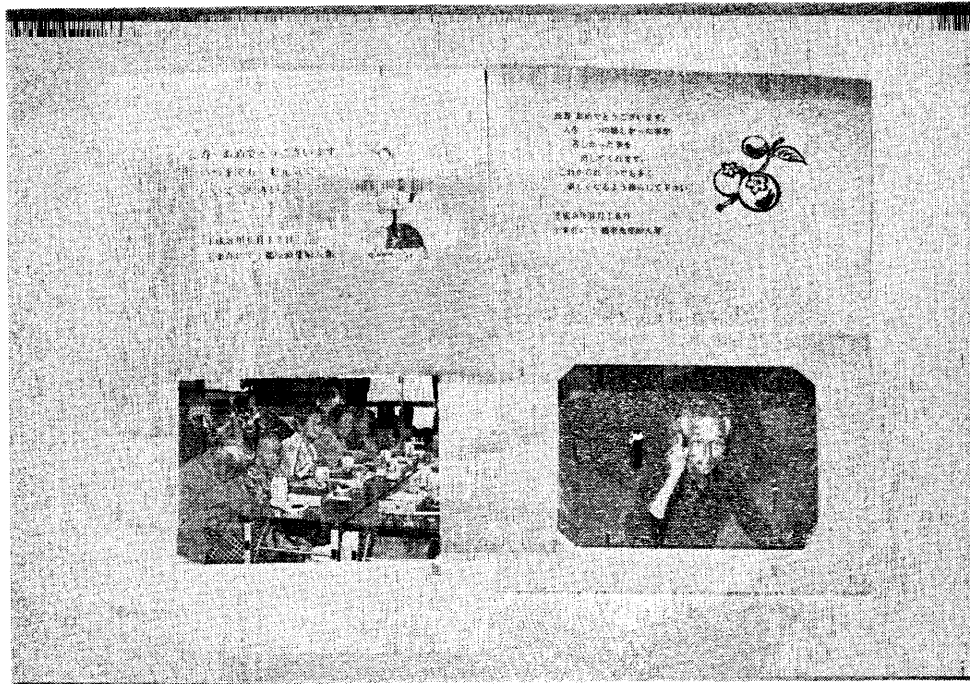


写真1 「敬老の集い」後に配った手作りカード

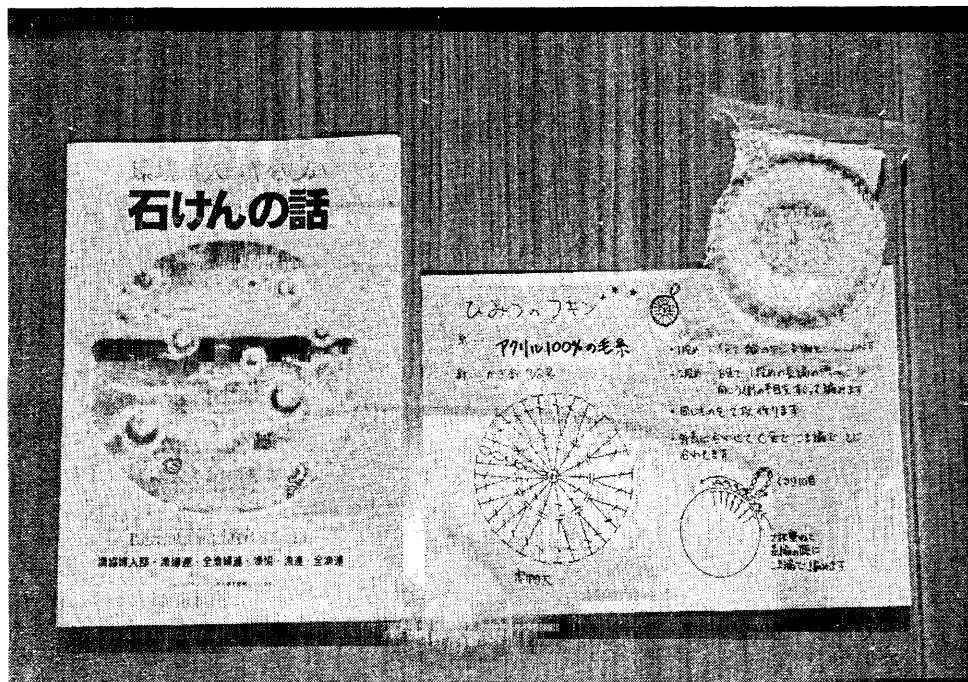


写真2 部員に配った石けんのパンフレットとアクリル毛糸製のフキン